



5月1日(土)~31日(月)

淡路瓦400年祭

歴史を重ねて400年、「淡路瓦400年祭」が津井地区を中心に開催します。窯元巡りや瓦割り体験、鬼瓦・コースターづくり体験、電動アシスト付レンタサイクル「旅チャリ」の貸出しなどが行われます。

オープニングセレモニー「火入れ式」

・5月1日(土)8:00~ 達磨窯 (津井)

レッテルラリー開催

・5月17日(月)~30日(日)

瓦を出荷する際に使うあて紙『レッテル』を各窯元で配布します。集めた枚数に応じて淡路玉ねぎが当たる抽選会に参加できます。

グランドフィナーレ

・5月30日(日)14:00~

餅まきや郷土料理のふるまいが産業文化センターにて行われます。

☎産業文化センター ☎ 38-0201

鬼瓦づくり体験(定員各20人)

5月16日(日)9:00~、13:00~
費用3,000円、要申込



市 (いち)

『続三原郡史』

地名の由来

その11

市子(いちこ)が集団で住んでいた地域…

仲野安雄著『淡路常盤草』

でいたことによるとされた。

に、「旧国府の市といふ古の国府の地なり。市場の址あり、因つて名つく」とある。この説が後の『淡路草』、『味地草』に引き継がれ、今日に至っている。しかし、文献上の初見は、『護国寺文書』のうち室町初期の「八幡宮置米寄進目録」に「五升 市 新左衛門」とある。市村(大字)の市場(小字)に鎮座する夷社(事代主神社)の創建について『淡路草』は、慶長年間(1596~1614)に、日向国宮崎出身の山口伝兵衛という人が故郷の産土神夷社を勧請して祀った旨を記し、その子孫は、寺内村宮地に移住したが、伝兵衛が、最初に住んでいたところは、山口町(小地名)とよばれていて、伝兵衛の子孫は、当社の宮座での席次は、庄屋の次という慣例である旨を記している。

和歌森太郎博士は、『淡路島の民俗』のなかで、市村という地名は、市子(神巫〔女〕・みこ)が集団で住ん

見逃さない！

三原郡域遺跡！必見の書！

市長公室 ☎ 43・5002

URL: <http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/>

E-mail: kouhou@city.minamiawaji.hyogo.jp